

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人佐藤謙吉の上告趣意（後記）第一点について、

刑の執行猶予の言渡をしなかつたことを以つて、憲法一三条に保障する人権を侵害したものといえないことは、当裁判所の判例とするところであつて、論旨はその理由がない。（昭和二二年（れ）第二〇一号、同二三年三月二四日大法廷判決参照）。

同第二点は刑訴四〇五条の上告理由にあたらない。

なお、記録を調べても、刑訴四一一条を適用すべきものとは認められないから、同四〇八条に従い全裁判官一致の意見により、主文のとおり判決する。

昭和二七年三月二八日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎